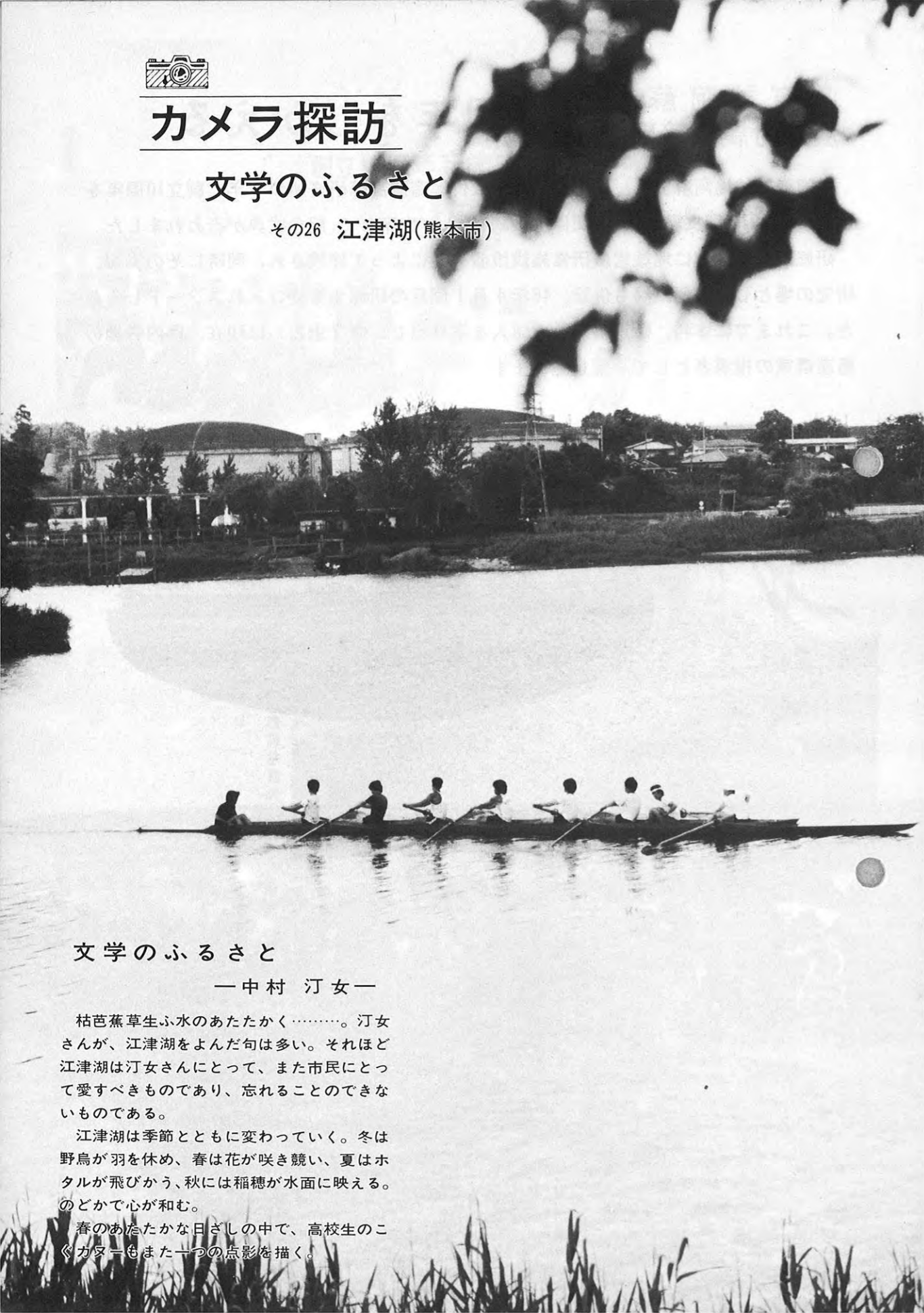




カメラ探訪

文学のふるさと

その26 江津湖(熊本市)



文学のふるさと

—中村 汀女—

枯芭蕉草生ふ水のあたたかく……。汀女さんが、江津湖をよんだ句は多い。それほど江津湖は汀女さんにとって、また市民にとって愛すべきものであり、忘れることのできないものである。

江津湖は季節とともに変わっていく。冬は野鳥が羽を休め、春は花が咲き競い、夏はホタルが飛びかう、秋には稲穂が水面に映える。どこかで心が和む。

春のあたたかな日ざしの中で、高校生のこゝろもまた一つの点影を描く。

わたしの
ふるこの
郷土

須恵村立須恵小学校 六年 本村 勲

今、ぼくの友達は、村に伝わるおどりの練習を、家の人とやっています。夜ですがお天気の良い時は九時ごろまでだそうです。もうおどれるようになったのでしよう。いろいろにぎあいます。

太鼓おどり・虎おどり・棒おどり・矢おどりと、おどりがわかれているからです。

どのおどりも、私たちの村に昔からあるのだそうですが、今度、小学校にできる体育館の落成を祝って、村の人に見ていただくのです。中学校が出来た時もありましたが、矢おどり、というのは、村の人の願いから、こんど、ようやく若い人たちでやれるようになったものです。みんなまた楽しみがふえたなと落成の日を待っています。

須恵村は県の南部、山にかこまれた人吉盆地の中央部にあります。南北に細長く、日本三急流の一つ球磨川が村の南部を横切って流れています。

昔から栄えた村だそうです。今でも多くの人に知られる村だと聞いています。それは、美しい自然に恵まれ、米のほかに、メロン、たばこ、菊、い草、赤牛、お茶などの農業がさかんだからです。

次に、人口は約千五百人で熊本県では一番小さい村ですが、アメリカのエンブリーという先生によって、世界にも知られるようになります。今でも研究にこられる先生が多いそうです。

また、ぼくたちの村は熊本県でも一番火事のない村だということです。みんなでこの記録をずっとのびしたいなと思っています。

ぼくは、こんな須恵村ですが、一番のじまんは、村の人はみんなやさしく、礼儀正しく・健康で働き者ばかりだということです。ですから、これからも、おどりだけでなく、たくさんのおい伝説を引継いでいきたいと思っています。